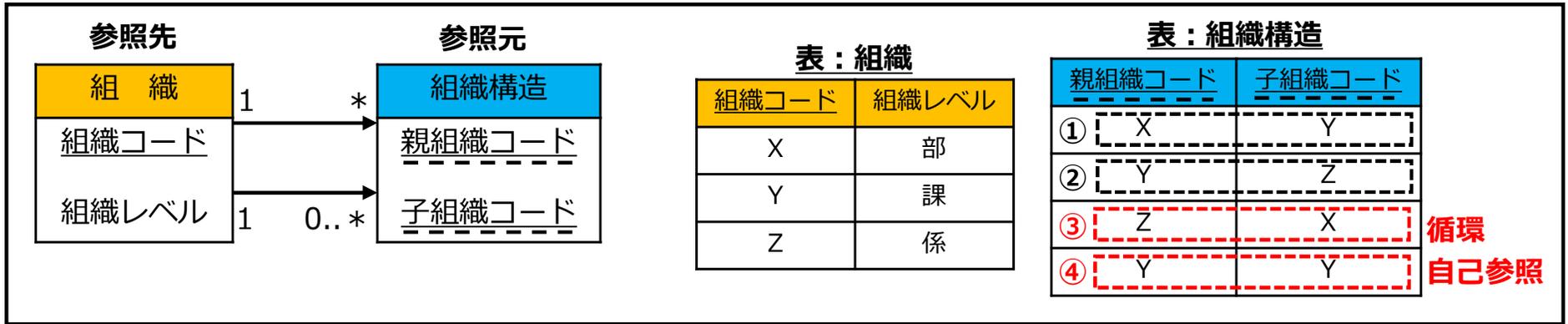


【複数のリレーションシップが存在する E-R 図】

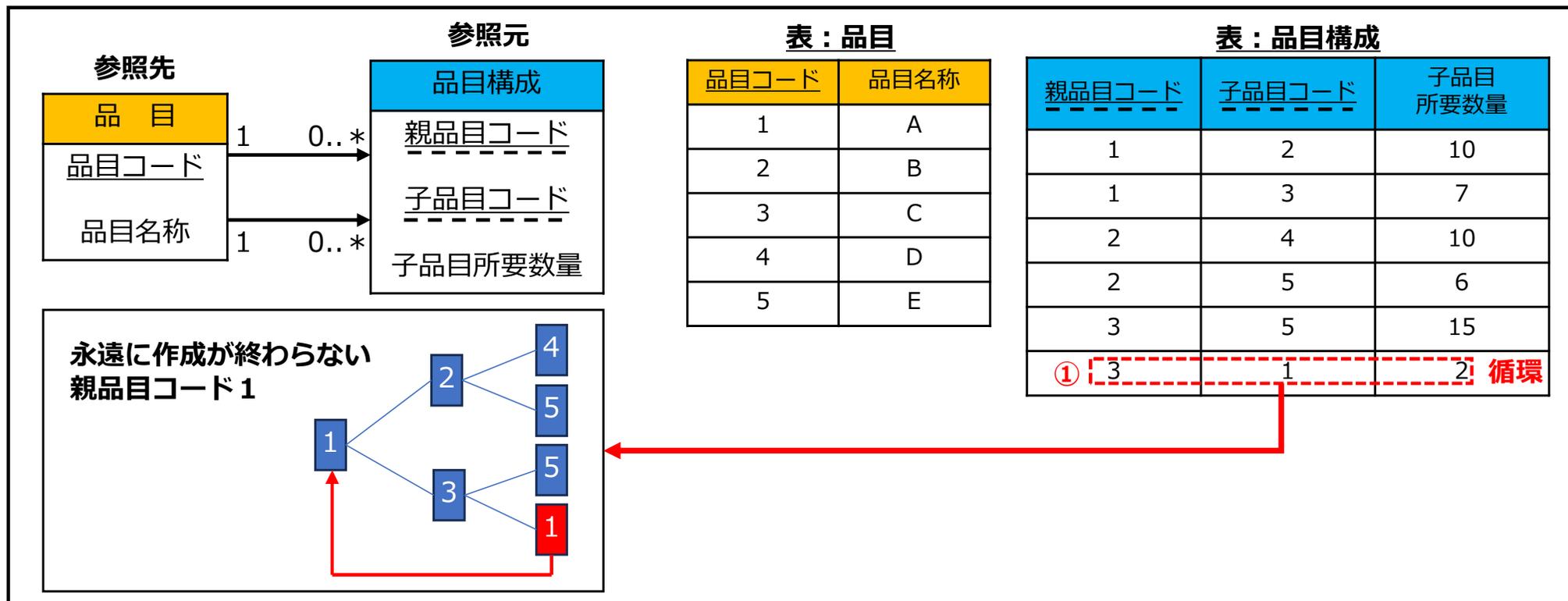
下図（親子関係その1）のとおり「組織構造」の {親組織コード} と {子組織コード} は「組織」の {組織コード} を参照する外部キーです。つまり、2つのリレーションシップがあるため、矢印は2本となります。

ここで、記述方法はわかりませんが「循環制約」や「自己参照制約」を設定しておかないと「表：組織構造」の③と④のようなデータも登録できてしまいます。特に③によって、③→①→②→③→①→②→…となってしまいます。



図：親子関係その1

下図（親子関係その2）も前ページの図と同様のE-R図であり「循環制約」を設定しておかないと「表：品目構成」の①のようなデータも登録できてしまいます。それによって、親品目コード1の作成は永遠と続きます。



図：親子関係その2